



「年表でたどる阪神・淡路大震災」



※ 関連:安全ノートP.22~30

「発災から復興までのあしあと」(震災発生から11年目から19年目の軌跡)

年	主なできごと等															
2006年	<p>5/19 阪神・淡路大震災発生から11年で被害全容確定</p> <p>兵庫県は19日、阪神・淡路大震災による住宅の一部損壊や公共施設の最終的な被害個所数などを発表した。再調査で一部損壊は、神戸市の12万6千197棟が初めて計上されるなど、被災地全域の2府1県で、これまでの約1.5倍にあたる39万506棟となった。震災から11年を過ぎてようやく被害状況がすべて確定した。 (神戸新聞 2006年 5月20日紙面より引用)</p> <table border="1" data-bbox="1034 616 1401 862"> <caption>阪神・淡路大震災で確定した主な被害状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>確定</th> <th>増加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一部損壊(棟)</td> <td>390,506</td> <td>126,804</td> </tr> <tr> <td>火災件数</td> <td>293</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>焼損棟数</td> <td>7,574</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>焼損床面積(m²)</td> <td>835,858</td> <td>1,195</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2005年12月との比較)</p>		確定	増加数	一部損壊(棟)	390,506	126,804	火災件数	293	8	焼損棟数	7,574	91	焼損床面積(m ²)	835,858	1,195
	確定	増加数														
一部損壊(棟)	390,506	126,804														
火災件数	293	8														
焼損棟数	7,574	91														
焼損床面積(m ²)	835,858	1,195														
2007年	11/9 改正被災者生活再建支援法が成立															
2008年	1/13 災害からの復興を多角的に研究する「日本災害復興学会」が発足															
2009年	<p>9/29 「鉄人28号」のモニュメント完成</p> <p>阪神・淡路大震災の復興のシンボルとして組み立てられた「鉄人28号」の原寸大モニュメントが神戸市長田区の若松公園に完成。地元商店主らが「震災復興のシンボルに」と計画。10月4日には完成式典が開かれた。</p> <p>12月 「震災障害者」を神戸市が初集計 震災でけがをし、後遺症が出た障害者が市内に183人いると把握、10年度に追跡調査をすることが分かった。</p>															
2010年	1/17 「神戸震災復興記念公園」が開園															
2011年	<p>3/11 東日本大震災発生</p> <p>11/20 「第1回神戸マラソン」開催</p> <p>「感謝と友情」を掲げた「第1回神戸マラソン」(神戸新聞社共催)が11月20日、神戸市で開かれた。全国から2万2958人が出場し、さわやかな秋晴れの下、阪神・淡路大震災から16年たった神戸のまちを駆け抜けた。</p>															
2012年	<p>8/29 南海トラフ地震の被害想定を発表</p> <p>内閣府は8月29日、「南海トラフ」沿いで巨大地震が起きた場合、関東以西の30都府県で最大32万3千人が死亡するとの被害想定を発表。兵庫県内では、全ての堤防と水門が被災して機能しない最悪のケースで、阪神・淡路大震災の死者数を上回る約7400人となる。</p>															
2013年	<p>4/13 淡路島地震発生</p> <p>4月13日午前5時33分ごろ、淡路市で震度6弱を記録するなど広範囲で強い地震が発生。地震の規模はマグニチュード(M)6.3。兵庫県内のけが人は26人、建物被害は島内3市と神戸市など9市1町で1万棟を超えた。</p>															
2014年	<p>4/17 震災20年事業がスタート</p> <p>兵庫県は17日、阪神・淡路大震災20年事業のスタートとなる「ひょうご安全の日推進県会議」の臨時総会を神戸市内で開いた。</p> <p>事業テーマ 「1・17は忘れない - 伝える・備える・活かす」</p>															



※ イメージ



「年表でたどる阪神・淡路大震災」



※ 関連:安全ノートP.22~30

「発災から復興までのあしあと」(震災発生から20年目以降の軌跡)

年	主なできごと等
2015年	<p>阪神・淡路大震災から20年 1・17のつどい、参加過去最多 今年の3倍 1万4千人</p> <p>6434人が亡くなり、3人が行方不明になった阪神・淡路大震災は17日、発生から丸20年を迎えた。発生時刻の午前5時46分に合わせて各地で追悼行事が営まれ、神戸・三宮の東遊園地で行われた「1・17のつどい」(神戸市など主催)には、今年の約3倍で過去最多の約1万4千人が参加し、黙とうをささげた。</p> 
2016年	<p>1/6 神戸・東遊園地での追悼行事を支えてきたボランティア団体「神戸・市民交流会」が、3月の解散を前に最後の作業</p> <p>多言語コミュニティ放送局「FMわいわい」(神戸市長田区)も3月末でFM放送を終え、インターネット放送への移行を決定。被災者生活再建支援法の制定を求めた市民運動の拠点となった芦屋市の「山村サロン」も8月に閉館するなど、市民の活動が曲がり角に。</p>
2017年	<p>3/15 公益財団法人「阪神・淡路大震災復興基金」が2020年度で全ての事業を終える見通しであることが判明</p>
2018年	<p>6/18 大阪で震度6弱 尼崎、西宮、伊丹、川西で震度5弱</p>
2019年	<p>1/17 東京で初の「1・17」のつどい</p> <p>阪神・淡路大震災への思いを被災地から離れた東京でも共有しようと17日、東京都千代田区の日比谷公園で追悼行事「1・17のつどい」が開かれた。会場では、参加者が約100本のろうそくを「1・17」の形に並べ、東遊園地の「1・17希望の灯り」と岩手県陸前高田市の「3・11希望の灯り」から分灯された火をともした。</p>
2020年	<p>1/17 阪神・淡路大震災から25年 あれから四半世紀、消えない無念 遺族の声</p> <p>阪神・淡路大震災は17日、発生から25年となり、各地で追悼行事が営まれた。神戸・三宮の東遊園地では約5千本の竹灯籠に、亡き人の面影が重なった。「僕もお母さんが亡くなった年と同じ47歳になったよ」。四半世紀の時が流れても、亡き人の無念は消えず、亡き人への追慕も変わらない。この日一日、被災地は祈りに包まれる。</p> 
2021年	<p>11/27 「人と防災未来センター」入館者数が900万を突破</p>
2022年	<p>6/3 阪神・淡路大震災発生から「1万日」</p>
2023年	<p>4/3 災害の記録どう残し、伝える? 阪神・淡路や東北の震災を知る研究者ら、意見交換 公表する葛藤も吐露</p>
2024年	<p>1/17 阪神・淡路大震災発生から29年 小中学校など避難訓練や黙とう 来年、30年の節目 増加「阪神・淡路」伝承する意識向上</p> <p>学校・幼稚園で黙とうや訓練を行うのは計910校園で、前年比37校園増。小中学校などでの黙とうや避難訓練は増え、調査した「市民による追悼行事を考える会」は「次代へ伝承する意識が教育現場で高まっている」とした。</p>